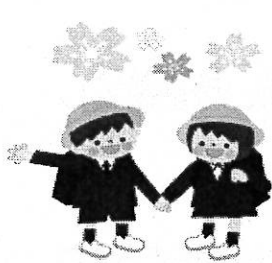


～ 予防接種は麻しんにかからないための免疫を獲得する唯一の方法です ～
しょうがっこうにゅうがくまえ せっしゅ

小学校入学前にMR7ワクチンの接種を！

無料で接種できる期間は平成27年3月31日までです。

この期間を過ぎると全額自己負担とな1万円程度の自己負担がかかります。



対象者：平成20年4月2日～平成21年4月1日生まれの方

接種期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日まで

接種場所：市内委託医療機関 ※事前に予約が必要な場合があります。

持ち物：予診票（予防接種手帳）、母子健康手帳など

※予診票がみあたらない場合は保健福祉センターで母子健康手帳や健康保険証など年齢がわかるものを提示して再発行してもらってください。

MR2期(2回目)の接種が必要な理由

1. 1回接種のみでは免疫がつかなかったり、免疫が持続せずに麻しんにかかってしまうことがあります。
2. 2回の接種で98～99%の子どもの、麻しんと風しん両方の免疫が付きまます。
3. 麻しんを発病すると特別な治療法はなく、合併症を併発して重症化することがあります。
4. 風しんは妊娠中にかかると出生児に先天性風しん症候群を引き起こすことがあります。
5. 将来の進学や就職時に、麻しんワクチンの接種の有無が問われることがあります。



接種間隔について

生ワクチン（麻しん風しん）を接種したあとは27日以上、不活化ワクチン（日本脳炎・インフルエンザなど）を接種したあとは6日以上の間隔をあける必要があります。計画的に接種を受けましょう。

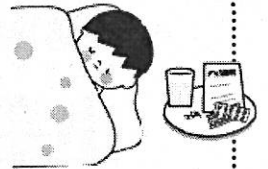
副反応について

接種後13日以内に発熱（約6%）や発しん（約1%）がみられますが、通常は1から2日で消失します。まれに一過性の熱性けいれん、脳炎や脳症（100万から150万人に1人以下）がおこることがあります。

【各区保健福祉センター問い合わせ先】

保健福祉センター	電話番号	保健福祉センター	電話番号	保健福祉センター	電話番号
北区	6313-9882	天王寺区	6774-9882	城東区	6930-9882
都島区	6882-9882	浪速区	6647-9882	鶴見区	6915-9882
福島区	6464-9882	西淀川区	6478-9882	阿倍野区	6622-9882
此花区	6466-9882	淀川区	6308-9882	住之江区	6682-9882
中央区	6267-9882	東淀川区	4809-9882	住吉区	6694-9882
西区	6532-9882	東成区	6977-9882	東住吉区	4399-9882
港区	6576-9882	生野区	6715-9882	平野区	4302-9882
大正区	4394-9882	旭区	6957-9882	西成区	6659-9882

麻しんはどんな病気ですか？



昔は「**命定め**（麻しんにかかったら生きるか死ぬかわからないこと）の病気」と言われていました。特別な治療がない今も、「**命定め**の病気」であることに変わりありません。感染力がきわめて高く、予防接種をしないとほとんどの人がかかる病気です。感染して回復するまで約7～10日間と長いので、身体への負担が強く、合併症によって重症化することがあります。

◆ 感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる麻しんウイルスにより空気感染、飛沫感染、接触感染します。潜伏期間は約10～12日です。



◆ 症状

主な症状は発熱、せき、鼻水、目の充血、発しんです。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたあと、再び高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。

◆ 合併症

気管支炎、中耳炎、肺炎、脳炎があり、患者100人中、中耳炎は7～9人、肺炎は1～6人、脳炎は1,000人に2人の割合で発生がみられます。

また、数年から10数年経過した後に発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は、約5万人に1人発生します。さらに麻しんにかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。※予防接種を受けると、これらの重い合併症はおこりません。

風しんはどんな病気ですか？



発しんや発熱が3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」ともいわれます。妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、先天性風しん症候群（先天性心疾患、白内障、難聴など）の子どもが生まれる可能性が高くなります。女性は、妊娠中に予防接種を受けることができないため、妊娠前に予防接種を受けておくことが大切です。また、男性も風しんにかかって周囲の妊婦に感染させないように予防接種を受けておくことが大切です。

◆ 感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスにより飛沫感染します。潜伏期間は約14～21日です。



◆ 症状

主な症状は麻しんより淡い色の赤い発しん、発熱、首の後ろのリンパ節がはれるなどです。その他に、せき、鼻水、目の充血などの症状がみられることもあります。

◆ 合併症

関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎が報告されています。患者の中で、血小板減少性紫斑病は約3,000人に1人、脳炎は約6,000人に1人ほどの割合で発症します。大人になってからかかると、子どもの時より重症化する傾向がみられます。